

中国人学習者の日本語談話における文末スタイルの 認識について

王, 曉梅
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494643>

出版情報：比較社会文化研究. 20, pp.21-38, 2006-09-30. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

中国人学習者の日本語談話における文末スタイルの認識について

オウ ギョウ バイ
王 暁 梅

1. はじめに

日本語の会話では、スタイル¹の違いが大きな意味を持つと言われる。例えば因 (2004) は「日本語の会話、特にくだけた会話では、文末においてレベル (丁寧体/普通体) とジェンダーの表示について何らかの選択をしなければならず、その選択によって、同じ命題内容を持つ発話であっても会話における効果に大きな違いが生じ得る」と述べている。しかし、日本語においては聞き手と話し手の上下関係や、親疎関係、場の状況などを判断した上でスタイルの選択を行なうゆえ、日本語母語話者でさえその選択に悩まされることがあるようである (立松1989、小林他2002)。また、学習者が日本人と接する時には、不適切なスタイルの使用により、相手に誤解や悪い印象を与えてしまうこともしばしばある。その中でも、中国人日本語学習者の間違いが特に目立っているという報告がある (樋下2002、李2003)。

一般的に日本語教育においては、丁寧体も普通体も初級段階で導入される。それにも関わらず、日本語レベルのかなり高い学習者でも間違ったスタイルを使用してしまうことから、スタイルの教育方法について見直す必要があると考えられる。本研究は、その準備段階として、中国人学習者の文末スタイルについての認識をテスト形式で調査したものである。

第2節では本研究の背景として、まず文体に関する日中の違いを提示し、これまで行われてきた先行研究をまとめる。第3節では、筆者が行なった調査の概要について簡単に説明する。第4節では調査結果を表にまとめて例示し、第5節では調査結果に基づいて考察を行なう。第6節では本研究の成果に基づき日本語教育への提言を行なう。また、今回の調査の問題点を挙げ、今後の研究目標を定める。

2. 本研究の背景

2-1 文体に関する日中の違い

現代中国語には、日本語の丁寧体と普通体のような文体の区別は存在しない² (佐治1983、蘇1999)。また、現代の中国語には体系的な敬語法は存在しないと言われていたが、昔の中国では敬語が使われていたようである。しかし、「敬語とは要するに、何段もの身分差別の上に立とうとする上流人のみに必要なことば」(藤堂1974)であり、一般の人びとの間には、原則として敬語は必要がなかった。ただし、昔から中国においては呼び方が重視、工夫され、人称代名詞や親族名称によって親しみや敬意を表す手段が現在もよく使われている (藤堂1974、興水1977)。また「請」などの特殊語彙や間接的敬語表現³によって敬意を表す手段もある (木村1987) が、中国語では日本語のように文体に人間関係が表れることはない。

一方、日本語の文体 (スタイル) はポライトネス (丁寧さ) を表現する重要な要素である。丁寧体の形式「です」「ます」は狭義の日本語の敬語⁴の「丁寧語」に当たるため、その意味で、「丁寧体は普通体より丁寧である」と言える。しかし、これまで行われてきた談話レベルでの日本語のポライトネスについての多くの研究が指摘したように、敬語を使ったからと言って、言語行動としては必ずしも丁寧な言語行動になるとは限らない。更に、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化されるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を目指してダイナミックに交替している」(松村・因2001: 11-13)。

しかし、日本語の文体に関して、中国では「丁寧体は敬意を表し、普通体は親しみを表す」などのように固定的に教えている⁵。このような説明は学習者の誤用及び誤解に繋がりがかねないと考えられる。また、以上述べた違

1 本研究で言う「スタイル」は「文体」のことであり、丁寧体 (敬体) と普通体 (常体) の範疇を指す。「丁寧体」というのは「デスマス体」、「普通体」というのは「ダ体」を意味する。
2 勿論、中国語にも方言語彙がたくさんあるが、標準語 (普通話) だけであれば、性別、世代、職業などによるスタイルの違いはあまりない。
3 例えば、「讓我想一想」「少し私に考えさせて下さい」のような、使役構文の形を利用した控え目な意志表示の表現がそれに該当する (木村1987: 38-39)。
4 つまり従来言われている尊敬語「おっしゃる」「いらっしゃる」の類、謙讓語「申し上げる」「参る」などの類と丁寧語「です」「ます」の類の範疇を指す。
5 詳しい教材分析は王2005を参照されたい。

いから分かるように、日中両言語はスタイルの概念がそもそも異なっている。そのため、中国人学習者が日本語の文体の機能を認識しようとする際に、中国独特の文化的価値観による影響を受けることが予測される。

2-2 学習者の認識についての観察（先行研究）

因（2005）は、ストーリー・マンガの中の発話に対する解釈が、上級またはそれ以上の日本語学習者でも日本語母語話者とはかなり異なることを観察している。解釈のずれが多く見られると指摘された用法の中で、スタイルの機能に関するものを表1にまとめた。

因（2005）は上級学習者であっても、発話の文体的特徴や語用論的要因の理解が十分でなく、誤った解釈をしていることが多いと報告している。この報告は非常に示唆的であるが、上級者の母語の影響については言及しておらず、中国語母語話者には特にどのような問題があるかは明らかではない。中国語母語話者への教授法を考えるために、中国語母語話者に限って調査する必要があると考え、因（2005）に報告された例の中のスタイルに関するもの、及び筆者の採集した例を用いてテストを作成し、日本国内と中国で学ぶ学習者を対象に調査を行なった。

3. 調査について

3-1 調査の時期と対象者

学習者の認識を比較するために、日本語母語話者も調査対象とした。調査は2004年7月～10月、中国山東省曲阜師範大学の日本語科の学生32名、日本の福岡県に在住する中国人留学生35⁶名及び日本語母語話者30名、合計97名を対象に行った。日本語学習者の場合、初級より中・上級レベルの学習者の方が待遇表現における誤解と誤用が目立つと言われている（ネウストプニー1982 立松

1989 小川2003）ため、分析及び考察を行う際には、学習年数⁷が2年以上の者のデータに限定した。

テストの実施時間は、日本語学校生には1時間以内と制限しテスト当日に回答を回収したほかは、すべて持ち帰りて時間の制限をしなかった。また、学習者の会話例の内容についての理解不足による回答への影響を最小限におさえるために、調査対象の中国人学習者全員に単語表⁸が付いているテスト用紙を配布した。また、意味が分からない時は必ず辞書を使用したり、日本語教師などに確認したりするよう依頼した。

3-2 調査テストの形式

本調査テストの問題形式は、会話における丁寧体と普通体の使用可能性についての判定形式、それぞれ丁寧体と普通体を使用する同じ会話についての印象の選択形式と会話における丁寧体と普通体の使用についての印象の選択形式の3種類がある。回答の形式は殆ど選択形式であるが、最後の1問だけ普通体使用の理由について記述してもらうようにしている。また、各問題の選択肢以外の感じを受ける場合もそれぞれ書いてもらうようにしている。

3-3 調査項目と調査内容

本調査テストの調査項目は、因（2001、2005）で指摘されている学習者の解釈に見られる日本語母語話者とはかなり異なる文体の機能、及び松村・因（2001）でまとめられている「わきまえ」の表現と「ストラテジー」の表現⁹に基づいて設定した。具体的に表2で示しておく。

6 福岡の日本語学校生、福岡国際大学留学生、九州大学留学生の協力を得た。

7 中国での学習年数と日本での学習年数を合わせて計算した。

8 会話例に出ている、中級レベルの学習者に難しいと思われる24の単語に中国語訳をつけた。

9 松村・因（2001）では、日本語の談話における話者が自分の立場の「わきまえ」を示す手段や相手への親しみを示し緊張を和らげるために用いる「ストラテジー」が列挙されているが、本研究と関係があるのは以下のようなものである。

「わきまえ」の表現

(1) 文末の動詞

- | | |
|-------------|--|
| ① 相手の動作について | 尊敬語・敬体（一般成人同士）
普通語・敬体（目下へ）
尊敬語・普通体（成人の同等または目下へ [女性]） |
| ② 一般の動作について | 敬体（一般成人同士）
普通体（目下へ） |

「ストラテジー」の表現

(1) 形態の選択に関わるもの

- ① 終止形使用の回避
- ② 常体の継続使用
- ③ 常体への散発的移行（松村・因2001：36-37）

表1：学習者に誤解が多く見られるスタイルの機能（因2005：33-38）

	例1	例2	例3	例4
文体	普通体	普通体	丁寧体	普通体
用法	自己向け発話を装う	相手への接近及び相手の接近に応じて、親しみを表す	場の改まりを示す	攻撃的な態度を偽る
効果	感情の偽りのなさを示す	相手に同調して、丁寧さを示す	相手に厳粛な態度を求める	相手の遠慮をあらかじめ封じるという配慮を示す
学習者の誤解釈の例	<ul style="list-style-type: none"> 少年院院長という立派な仕事の話を話すときは丁寧体で、生活の話を話すときは普通体 はっきり自己主張をしたときは普通体 緊張がなくなったから 	<p>患者の発話について：</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者は病院のお客様だから、普通体を使ってもいい 年が上だから、普通体を使ってもいい <p>医師の発話について：</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い医師でまだ（こうした難しい状況に）慣れていないから 	<ul style="list-style-type: none"> お母さんは自分の娘は上品に育てようとしているのでいい言葉も使うが、田舎っぽい隣の子にはほんざいな言葉だけでいいと思っているのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 勝手なことをしたので怒られた 芳春が秘密を持っていたことが和尚は気に入らない 荒々しい言葉は怒りを示す 厳しい言い方だが、一番偉い僧だから、いばっても当然だ
学習者の意識	「丁寧体＝敬意の表れ、普通体＝その欠如の表れ」という原則に基づいて解釈を行なっている。	「過失」や「普通体＝敬意・配慮の欠如」と見ていて、普通体が意識的にストラテジーとして用いられ、「感情の純粹さ」や「接近への意図」が表示されているという点は認識されていない。	文体を決定するのは個人の個人に対する「敬意」「丁寧さ」の多寡だと考えている。場面の影響については意識が薄い。	攻撃的な意図を偽装する動機はわかりやすいが、親和的意図をなぜ直截に表示しないのかは理解しにくい。
会話例	<p>『家裁の人』『ヒトリシズカ』</p> <p>院長：なあ… 妻：なんですか？ 院長：来年当たり、どこかへ飛ばされるかもしれん… 妻：どこだってかまいませんよ。慣れていますから。 院長：3年は落ち着けると思っていたんだが…人吉か… 妻：まあ！だったらカラシレンコンを死ぬほど食べられるわね！ 院長：佐世保か… 妻：それなら有田に柿右衛門の窯を見にいけるわ！</p>	<p>『研修医なな子』『なな子の涙』</p> <p>医師：木本さん、どうですか。 患者：あ、先生。自分じゃどこもどうもないのに、寝てるのってしんどいわあ。 医師：行き先届ければ、出かけてもいいですよ。（中略） 患者：癌——なんですかねえ。 医師：ま、それも含めて今検査をしているんですよ。はっきりしたことは手術してみないと… 患者：不思議なもので、自分の病気についてはこわくもなんともないんだけど、ただ子どものことだけがかわいそうでねえ。 医師：そーんな暗いことばかり言ったら、かわいい息子さんか心配するよ。</p>	<p>『わたしの人形はよい人形』『わたしの人形はよい人形』</p> <p>母親：初子ちゃん、あんた、ジープにぶつかったの。 初子：うん、ドッスンって。 母親：まあ！あぶない。なんともないの？ （中略） 千恵子：あ！お母さん、あれ、なーに。 母親：だめよ。チョコのついた手で。大事なもののよ。お母さんが女学校に入学したとき買ってもらったお人形なのよ。 千恵子：お母さんのお人形なの？お母さんの？どうして、どうして？お母さん、大人じゃない。大人でもお人形がいるの？ 母親：あせらなくてもいいのよ。これ、千恵子にあげますよ。でも、大事にしてくれるという約束ができなくちゃだめ。</p>	<p>『雨柳堂夢咄』『おもかげ行灯』</p> <p>和尚：こーら、芳春！お前はここの頃わざと食事を残してはどこへ持っていくのじゃ？わしが知らんと思うとるのか。 芳春：あの…あの…それは… 和尚：ほれ。檀家でもろうた饅頭じゃ。お前のような年頃の者があまり腹をすかせてはいかん。食べなさい。</p>

表 2 : 調査項目と調査内容

調査項目	調査内容
①留学生↔事務室の人 後輩↔先輩 患者↔若い研修医 学生↔先生 和尚様→小僧 母→近所の娘 など、それぞれの会話に使用されている文体に社会的上下関係・内外関係を反映する用法	ここでは、留学生から事務室の人へ、後輩から先輩へ、学生から先生へなど、社会的地位が下位の者から上位の者への発話の文末は基本的に丁寧体を使うことを学習者が認識しているかどうかを調査する。逆に、上位の者から下位の者への丁寧体或は普通体使用の発話について、学習者がどのように認識しているかも調べる。「和尚様→小僧」の例について、因 (2005) の観察によると、学習者は殆どの者が、和尚様の荒い言葉遣いの裏には対立的意図があると思込んでいるようである。本調査では、和尚様の発話を丁寧体に変えるなどによって、更に違う角度から学習者の認識を調べることにする。(テスト 2、3、4、5、6、7)
②年少者↔年長者 距離を示す用法	ここでは、特に和尚様の丁寧体を用いる発話には距離を示す用法について学習者が認識しているかどうかを調べる。(テスト 3、8)
③母→娘 丁寧体を用いて、場の改まりを示す用法	これは、基本的に大人から子供へ普通体で発話するが、ここでは丁寧体を用いる用例である。因 (2005) の観察では、学習者は「場の変化を認識しにくい」ようである。ここでは、中国人学習者の認識の傾向を調べる。(テスト 6)
④学生→先生 複文の文末に普通体を使用する用法	文中でも丁寧体を多く使うと、時には「過剰敬語」と批判されることがあると菊池 (1994)、渋谷 (1997) が指摘している。ここでは、丁寧体の発話の中でも、複文の文末であれば普通体が使用できることを学習者が認識しているかどうかを調べる。(テスト 1)
⑤年少者→年長者 普通体を用いて、故意に失礼を示す用法	ここでは、年少者が丁寧体を使うべき発話に、普通体を使うことに学習者がどのように認識しているかを調べる。(テスト 8)
⑥患者→若い研修医 学生→先生 普通体を用いて、模擬独り言の用法	ここでは、基本的に丁寧体を用いるべき発話の中に、模擬独り言の普通体の発話について、学習者が認識できるかどうかを調べる。因 (2005) によると、「患者と若い研修医」の会話例の中で、患者の普通体使用について、学習者は「普通体=敬意・配慮の欠如」と見ているようである。(テスト 7、9)
⑦学生→先生 普通体を用いて、複文の中途終止の用法	目下から目上への発話において、基本的に丁寧体を用いるが、複文の中途終止としての普通体使用が可能であることを学習者が認識しているかどうかを調べる。(テスト 9)
⑧後輩→先輩 普通体を用いて、副詞句の独立使用の用法	後輩から先輩へ基本的に丁寧体を用いるが、ここでは、副詞句の独立使用としての普通体使用の用法について、学習者が認識しているかどうかを調べる。(テスト 4)
⑨若い研修医→患者 普通体を用いて、相手への同調、親しみを表す用法	因 (2005) の観察では、「患者と若い研修医」の会話の中で、両者の普通体使用について、学習者は「普通体=敬意・配慮の欠如」と見えていて、普通体が意識的にストラテジーとして用いられ、「感情の純粹さ」や「接近への意図」が表示されている点は意識されていないようである。本調査では、両者の普通体使用について、中国人学習者の認識に特徴的な傾向が見られるかどうかを更に詳しく調べる。(テスト 7)

4. 調査結果

① 社会的上下関係・内外関係を反映する用法

テ ス ト	結 果			
	対 象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
2、留学生→大学の事務室の人 電車とバスと、①{A、どちらがいいでしょうか。/B、どちらがいいかな。} バスは時間が② {A、かかりますか?/B、かかる?} 表現の選択	認識			
	B	25% (8)	11% (4)	3% (1)

テ ス ト	結 果			
4、入社してまもない新人→先輩 いいお天気ですね。／今日ですか？／いいですね。 表現についての印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	大変丁寧或は丁寧すぎる	28% (9)	43%(15)	3%(1)
テ ス ト	結 果			
5、留学生→大学の事務室の人 それでもいいね。 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	普通	53% (17)	17%(6)	0

以上、留学生から事務室の人へ、後輩から先輩へなど、社会的地位が下位の者から上位の者への発話の文末で基本的に丁寧体を使うという認識はほとんどすべての日本語母語話者に見られる。また、その使い方は社会的上下関係・内外関係に従う普通の使い方であると認識している。それに対して、かなりの学習者がどの会話例におい

ても、下位の者が普通体のみ使用してもいいと判断している。また、下位者の丁寧体使用について「丁寧さや敬意を表す」或は「丁寧すぎる」、普通体使用について「親しみを表す」と丁寧体と普通体を形式から判断し、すぐ「敬意や丁寧さ」の有無と連想する学習者がかなりいることが分かる。

テ ス ト	結 果			
3、和尚様→小僧 どこへ持っていくのじゃ？わしが知らんと思うとるのか。 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	怒り、偉そう	38% (12)	40%(14)	3%(1)
テ ス ト	結 果			
4、先輩→後輩 そうね。今晚ヒマ？飲みにいかない？ 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	普通	59% (19)	51%(18)	93%(28)
テ ス ト	結 果			
5、事務室の人→留学生 ①あ、あれね。…／②それじゃいけない？ 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	①ぞんざい、失礼	34% (11)	37%(13)	17% (5)
	②ぞんざい、失礼	53% (17)	57%(20)	30% (9)
テ ス ト	結 果			
6、母→近所の娘 初子ちゃん あんたジープにぶつかったの？ 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	ぞんざい、失礼	22% (7)	14% (5)	7% (2)
テ ス ト	結 果			
7、若い研修医→年上の患者 ま それも含めて、今 検査をしているんですよ。 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	敬意或は丁寧すぎる	34% (11)	34%(12)	3%(1)

以上、上位者から下位者への丁寧体発話或は普通体発話について、日本語母語話者の認識にもズレが見られるが、学習者の認識はそれとはまた大いに違うことが分かる。例えば、事務室の人から留学生への普通体発話につ

いて、「ぞんざい、失礼」と認識している学習者は日本語母語話者の2倍である。

和尚様から小僧への普通体使用のぞんざいな言葉遣いについては、学習者の三分の一が「怒っている」「偉そう

である」と認識している。逆にその丁寧体使用の発話については、学習者の半分以上がプラスのイメージを持っている。つまり、学習者の中に、「丁寧体＝敬意、丁寧さの表れ」という固定観念を持っている回答者がいることが分かった。

また、日本語母語話者にとって、先輩から後輩へ使用する普通体というのは、親しさを示すというよりそれが普通だと認識するのがほとんどである。つまり日本社会

(会社や学校)では先輩と後輩というのは上下関係にあって、敬語を使うか使わないかによって上下の規律が守られ、仕事、授業やクラブ活動を進めているようである¹⁰。それに対して、半分ほどの学習者が先輩の普通体は「失礼」か「親しみを示している」との認識を示している、つまり、その普通体使用は発話戦略であると考えているようである。

② 丁寧体の使用で距離を示す用法

テ ス ト	結 果			
3、和尚様→小僧 どこへ持っていつているんですか？私が知らないとも思っているんですか。 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	丁寧、上品、親切	56% (18)	63% (22)	26% (8)

数字から分かるように、半分以上の学習者は和尚様の丁寧体にプラスのイメージを持っている。また、この会話において、留学生の場合は中国にいる学習者よりも和尚様の親和的意図を持つ表面上には攻撃的な言語行動(普通体使用のぞんざいな言葉遣い)への容認度が低いことが分かる。因(2005)は、「見かけ上歓迎されにくい攻撃的な発話の陰に暖かい意図が込められるという現象は、日本語のコミュニケーションにはよく見られる」と

述べている。実際に中国語にも似たような現象が存在するものの、日本語という外国語であるために「学習者は言語の表面の形だけを見て意味を解釈するおそれがある」と因(前掲)が指摘しているように、やはりかなり理解が難しいと言えるだろう。このような言語文化的知識に注意が向けられないことによって、学習者に深刻な誤解を与えかねないと考えられる。

③ 丁寧体の使用で、場の改まりを示す用法

テ ス ト	結 果			
6、母→娘 これ千恵子にあげますよ。 印象の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	優しくしようとして、丁寧	28% (9)	26% (9)	3% (1)

北原(1984)は「母親が子供に対して敬語を用いるのは、子供に敬意を表すためではない。おのずから備わった品位がそうさせるのである。また、子供を威厳をもって叱りつける場合には、敬語の使用は効果的である」(北

原1984:210)と述べている。しかし、少なからず学習者は「丁寧体」という表面的な形だけを見て、母親の丁寧体の使用は子供に対する敬意、丁寧さだと連想していて、「場の改まり」という点を意識できなかった。

④ 複文の文末に普通体を使用する用法

テ ス ト	結 果			
1、留学生→指導教官 おかげさまで何とか日本語も話せるように{A、なりましたし、/ B、なったし、}いろいろ勉強になりました。 表現の選択	対象 認識	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	A	78% (25)	63% (22)	73% (22)

学習者の認識は日本語母語話者と似ていて、目上に対しては複文の文末でも丁寧体を使うべきだと認識してい

る人が最も多い。中国の日本語教育においては、目上、特に先生に対し

10 国立国語研究所の調査によると、会社員や中高生の多数派はこの考え方を支持している。

て、「敬語を使うべきだ」と一面的に教える傾向がある。それによって、学習者が目上に敬意を表したい場合、敬語を多く使えばいいという誤解が生じやすい。

しかし、菊池 (1994) は、「文末以外のところでは『です・ます』を使わないほうが普通」(菊池1994: 301) と指摘している。野田ら (2001) も談話の中で、「他の文に従属しているような文や、聞き手に伝えるという意識のない文では、普通体の語形が使われる」(野田ほか2001:

136) と述べている。また、日本語教育指導書など¹¹⁾も特に連体修飾語の場合は普通体を使用するよう指導している。それは文中でも丁寧体を多く使うと、時には「過剰敬語」と批判されることがあるからであると菊池(1994)、渋谷 (1997) が言っている。従って、学習者に誤解が生じないように、複文の文末や連体修飾語には普通体が普通に使われることを認識させる必要があると考えられる。

⑤ 普通体を用いて、故意に失礼を示す用法

テ ス ト	結 果			
8、年少者→年長者 B、血はつながってない！ 印象の選択	対象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	認識			
	親しみを示す	19% (6)	6% (2)	3% (1)

この問題について、ほとんどの学習者は認識できている。しかし、何人かの学習者には、「丁寧体=敬意、丁寧

さの現れ、普通体=丁寧さの欠如或は親しみの表れ」という固定観念が強いようである。

⑥ 普通体を用いて、模擬独り言の用法

テ ス ト	結 果			
7、患者→研修医 寝てるのってしんどいわあ。 印象の選択	対象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	認識			
	失礼	13% (4)	23% (8)	0

テ ス ト	結 果			
9、学生→先生 A、むずかしいですね。／B、むずかしいなあ。／C、むずかしいね。 表現の選択	対象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	認識			
	B	24% (8)	43% (13)	76% (23)
	C	12% (4)	18% (6)	3% (1)

7について、因 (2005) はこの普通体の使用は、「職業の関係から一歩踏み込んだ信頼関係へという関係性の変化という要因と、感情表現の場合には模擬独り言というストラテジーを用いることができるという要因によって実現している」と解釈している。50%以上の学習者は正しい選択をしたものの、それは発話ストラテジーの使用であると認識しているかどうかは確認できていない。ま

た、中国人学習者の中には、「失礼だ」と認識している回答者はやはり「普通体」という言葉の表面だけに基づいて解釈をしたのかもしれない。

9は7より正しく認識できた学習者が少ない。留学生は中国にいる学習者より正しく選択した回答者が増えたが、使用してはいけないところでの普通体使用への容認度も中国にいる学習者より高いことが分かった。

⑦ 普通体を用いて、複文の中途終止の用法

テ ス ト	結 果			
9、学生→教授 知識をつけてからA、行ったほうがいいってことですね。／B、行ったほうがいいってことね。／C、行ったほうがいいってこと… 表現の選択	対象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
	認識			
	B	13% (4)	26% (9)	3% (1)
	C	6% (2)	17% (6)	40% (12)

11 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ10』『日本語教育ハンドブック』など。

Cの話し方が可能だと認識しているのはそれぞれ6%、17%、40%である。問題となるのは、Bを選択し、目上への発話に対して普通の文末に普通体が使用できる

と認識しているのは、日本語母語話者には1名しかいなかったのに対して、学習者にはそれぞれ13%と26%もいた。

⑧ 普通体を用いて、副詞句の独立使用の用法

テ ス ト	結 果			
	対 象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
4、後輩→先輩 ①いいお天気ね／②今日？／③いいね！！ ／④思ってたところの 表現使用可能性の選択	認識			
	②	3% (1)	20% (7)	33% (10)
	②以外	94% (30)	71% (25)	17% (5)

ここでの本来の目的は、目上との会話の中で、目下の副詞句の独立としての普通体の使用は失礼ではない認識が学習者にあるかどうかを調査することであった。しかし、全体的に不自然な会話の中の一部を質問としたからであろうか、日本語母語話者においても認識のゆれが見られた。それにしても、学習者の大半が②以外の言い方を容認している、つまり、目上に対しては使用してはいけないところで普通体の使用を容認するのは大きな問題であると考えられる。

一般的に、このような「先輩」と「後輩」の関係¹²は、日本と韓国では上下関係として捉えられているのに対し、中国では友達関係であると意識されていると言える。日本語学習者は「目上の人に対して、敬語を使うべき」と日本語を勉強する際に教えられるが、しかし実際に「先輩」というのは普通自分とそれほど年が離れていないため、立松(1989)が言っているように、「敬語使用が

親しくなるのを阻んでいるのではないかと先輩に対してどんなに親しくなっても丁寧に話さなければならないのか？」(立松1989:37)という中国人学習者の疑問はかなり多いわけである。適切な指導を受けていない学習者は、先輩に対して親しさを表すために、不適切なところで普通体を使ってしまうのである。深尾(1997)は丁寧さと親しさの間にどのような調節が行われるかということ、大学生を対象にして調べている(深尾1997:104)。結果として、やはり親しくなっても、上級生に対して普通体のみで話すのには抵抗があり、それでより丁寧度の低い敬語である丁寧体を選択し、もしくは丁寧体と普通体の使い分けを行い、丁寧さと親しさの両方を表現しようとしているようである。そして、男性より女性のほうがより丁寧度の低い言葉を選択し、親しさを重視しているようである。このような文化的差異を教師側として、学習者に提供する義務があるのではないかと考える。

⑨ 普通体を用いて、相手への同調、親しみを示す用法

テ ス ト	結 果			
	対 象	中国にいる 学習者32名	留学生 35名	日本人 30名
7、研修医→患者 かわいい息子さんが心配するよ。 印象の選択	認識			
	失礼	3% (1)	17% (6)	20% (6)
	親しみを示す	81% (26)	71% (25)	70% (21)

「失礼だ」と認識したのは、中国にいる学習者が最も少なく、1名しかいなかったのに対して、留学生と日本語母語話者はそれぞれ17% (6名)と20% (6名)であった。また、この普通体の機能について、「親しさを示す」と認識したのは、中国にいる学習者の81% (26名)で、最も多かった。

ここでの研修医の発話は、仕事を離れた個人的なものであると言える。因(2005)が言うように、研修医なな子は患者からの接近に応える形で、まるで親戚の娘でもあるかのように普通体を用いているのである。学習者の

多くは、日本語母語話者と比べて、「失礼だ」と認識するよりも「親しみを示す」と認識する傾向にあることが分かる。因(2005)の指摘する使い方が特殊な要因によって成り立っていることを理解しておらず、「普通体は親しみを示す」という表面的な解釈をしているおそれがあるのではないかと考えられる。

最後に、中国にいる学習者と留学生のテストの調査結果を比較した結果、中国にいる学習者より留学生がはつきりと正しく認識できる確率が上がったのは、4問だけ

12 テストに、この会話の中の後輩は「入社してまもない新人である」と明記してある。

であった。また、留学生35名を3つのグループに分け¹³、その答えの分布を考察した。テスト30問のうち、日本に滞在する時間が長くなるにつれ、文体機能に対する認識が高くなる傾向は以下に挙げる4問にだけにしか見られなかった。(パーセンテージは正解率を表す)

5. 考察

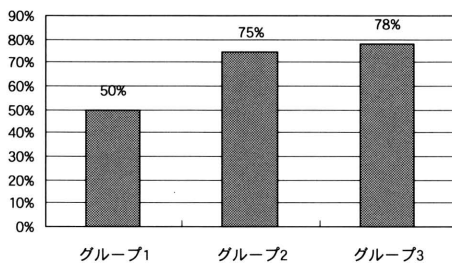
以下、調査結果の分析に基づき、中国人学習者による解釈の特徴をまとめてみることにする。

i 調査対象者の学習者のほとんどは、中級或は中級以上の学習者であるため、日本語においては社会的上下関係・内外関係に基づき、発話のスタイルを選択するというルールが存在することについて、ある程度の理解があると言える。これは、中国で広く使われている日本語教材の分析から分かる。また、学習者のテストにおける最後の記述からも窺われる¹⁴。しかし、日本と中国とは社会環境が違うために、日本の社会関係については誤解がかなりあるように思われる。例えば、先輩から後輩へ使用する普通体や、後輩から先輩へ使用する丁寧体に関して、日本語母語話者のほとんどは「普通である」と認識しているのに対して、中国人学習者は「丁寧さや親しみの表れである」と認識する傾向がある。一方、中国では、特に年が近い先輩と後輩の間にはほとんど「上下関係」ではなく、普通は「友達関係」と考えられているため、学習者はこのような先輩と後輩の会話を「友達同士」の会話として認識する傾向があると考えられる。また、テストの中の「留学

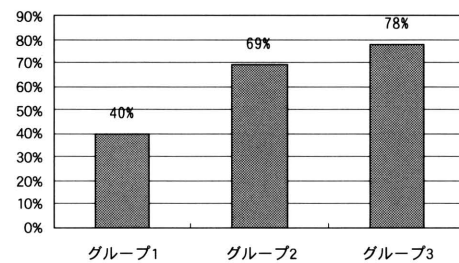
生と事務室の人」、「若い研修医と年上の患者」の会話について、学習者と日本語母語話者とはかなり違う認識を示しているから、これらの人間関係について両者の理解にズレがあると言える。

- ii 「和尚と小僧」の会話における和尚の普通体使用の見かけ上攻撃的でぞんざいな言葉遣いについて、「怒っている」「偉そうだ」と認識する日本語母語話者は一人もいないのに対し、学習者の三分之一がそのように認識している。また、母から娘への丁寧体使用の発話については、「優しくしようとして、丁寧だ」と認識している学習者は20%以上もいる。このほかにも、日本語母語話者が普通の使い方だと認識しているものに対して、学習者が「敬意を表す」或は「失礼」だと認識している印象選択式の調査問題がかなりあった。これらことから、学習者は丁寧体と普通体を形式から判断し、すぐ「敬意や丁寧さ」の有無を連想する傾向があると言える。
- iii 学生から教授に「行ったほうがいいってことね」「むずかしいね」のような表現を使用することが可能だと判断するのは、中国にいる学習者の10%程度と留学生の20%程度であった。また、後輩から先輩に向っての「いいお天気ね」「いいね!!」など、日本語母語話者のほとんどが「失礼だ」と認識しているものについて、学習者の半分ぐらいがそれは「普通」或は「親しさを示そうとしている」と認識している。これらの例から学習者は目上に対しても普通体の使用によって、親し

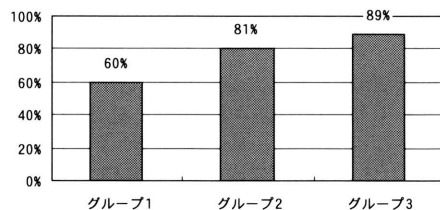
3問2



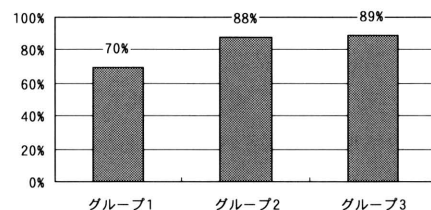
5①



5④



6問1



13 来日1年以内の10名をグループ1、1年～3年の16名をグループ2、3年以上の9名をグループ3に分けている。

14 要求していないにもかかわらず、「学生は先生に敬語を使うべきだ」と記述した学習者が数人いた。

みを示そうとする傾向があることが分かる。それは、中国の「親愛感即ち敬意」(木村1987)という敬語意識の影響を受けているためであると考えられる。また、中国の日本語教育においては、普通体は「親しみを表す」と強調されているため、学習者が親しみを表したときに、すぐ普通体を使用するのも当然であろう。しかし、正確な発話ストラテジーの指導を受けていないため、使用してはいけないところで普通体を使用してしまうことが多くある。

- iv 和尚様から小僧へ、母から近所の娘への発話などに使われている普通体について、かなりの学習者が「ぞんざい、失礼だ」と認識していることから、学習者は目上の普通体使用による「目下に対する親しみ、配慮」の機能を見落とすことがあることが分かる。これは、目上の普通体使用に関して、中国では「地位が上の人から下の人に使う」と固定的に教えているためではないかと考えられる。また、母から娘への丁寧体使用の発話については、「優しくしようとして、丁寧だ」と認識している学習者が20%以上もいることから、学習者は「場」の変化に応じて言葉を変化させる、或は言葉によって「場」を変化させるということに気が付かないことがあるとも言える。
- v 中国にいる学習者と留学生のテストの調査結果を比較した結果から、日本人との接触が増えるにつれ、学習者の文体の機能に対する理解が進む傾向はあまりないと言えよう。

6. おわりに

本研究調査を通して、中国人学習者が日本語の文体の機能を認識しようとする際に、中国独特の文化的価値観による影響を受けている可能性があることが分かった。従って、日本と中国の「丁寧さ」のルールの違いを学習者に明示する必要があると考えられる。また、学習者の誤解に中国の固定的な教え方による影響がある可能性も分かった。日本語の文体について、今まで行われている固定的な教え方ではなく、無標と有標の区別を示し、有標の使い方、特に学習者に誤解及び誤用が多く見られる上位者に対する丁寧さと親愛さの共起の発話ストラテジーを積極的に取り入れるべきであると考えられる。また、学習者は「場の変化」に気づかないことがあるため、そのような場面変化がある具体的な発話例を提示する必要もあると思われる。

日本人との接触が増えても、学習者の理解はあまり進

まないことから、文体の機能について学習者にきちんと指導する必要があることが示唆される。そのため、中国人学習者向けの教材や教育、訓練方法の開発が必要になる。因(2005)は「これまで殆ど具体的な提案が行われていない上級会話教育の方法として、こうした例(ストーリー・マンガから抽出した会話サンプル)を集積し適切なタスクと共に提供することは、一つの有望な方法である」と述べている。筆者も、中国での日本語の文体に関する教育の不備を解決するために、マンガのような素材を中国の日本語教育に援用することはかなり有効な方法ではないかと考える。そのため、インタビューなど他の方法で学習者の認識を更に綿密に調査する必要がある。それと同時に、適切なマンガの会話例を収集し、中国人学習者にどのように運用し、如何なる効果が表われるかを研究する必要性もある。

また、本研究では調査テスト作り及び研究方法に関して、いろいろな不備があった。例えば、選択肢の「普通だ」についての解釈に関して、このような使い方は社会的一般ルールに従う無標の使い方であり、発話ストラテジーではないと理解しているのか、それともこのような使い方「親しみや優位性などを示す」ことは普通であると理解しているのかを明示しておらず、その後フォロー・アップ・インタビューも行なわなかったため、回答の意図を明確に解釈できなかった。調査問題もバランスが取れていない。機能によっては設問が一問しかない場合と何問もある場合がある。そのため、ある学習者が一問できたからといって、必ずしもその機能について完全に理解できているとは言えない。また、日本語母語話者に依頼する時、説明がなかったため、留学生の立場で問題を考えた回答者がいた。学習者の認識を正確に把握するため、調査方法の研究も今後の課題としたい。

参考文献 (五十音順)

- 菊池 康人
1994『敬語』, 東京: 角川書店.
- 北原 保雄
1984『文法的に考える——日本語の表現と文法——』, 東京: 大修館書店.
- 木村 英樹
1987『中国語の敬語』『月刊言語』第16巻第8号, 38-43, 東京: 大修館書店.
- 小川 譽子美
2003『待遇表現指導に関する試論——上級者用シラバスの構築に向けて——』『広島大学留学生センター紀要』第13号, 47-53.
- 興水 優
1977『中国における敬語』『岩波講座日本語4敬語』, 273-299, 東京: 岩波書店.
- 佐治 圭三
1983『中国人学習者の間違えやすい敬語表現』『日本語教育学』第2巻, 第1号, 38-48.

渋谷 勝己

1997「日本語学習者のスタイル切り替え——従属節の丁寧表現をめぐって——」『京都外国語大学 無差・四』, 1-20.

蘇 徳昌

1999「日中の敬語表現」『現代中国語研究論集』 福岡：中国書店.

因 京子

2001「マンガを用いた日本語教育の視点と方法」『韓日言語文化研究』第2巻, 131-150.

2004「ジェンダー表現の機能」『言葉のからくり——河上誓作教授退官記念論文集——』, 773-785, 英宝社.

2005「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点——日本語学習者によるマンガ理解を通して——」『比較社会文化』vol.11.

立松 喜久子

1989「外国人学習者の待遇表現のレベルの適正さについて」『日本語教育』第69号, 36-46.

ネウストプニー, J・V

1978「POLITENESS と日本語教育」『日本語教育』第35号, 5-9.

1982『外国人とのコミュニケーション』, 東京：岩波書店.

野田 尚史他

2001『日本語学習者の文法習得』, 東京：大修館書店.

深尾 まどか

1997「大学生の敬語意識——丁寧さと親しさの調節について——」『日本語教育研究三三』, 82-106.

藤堂 明保

1974「中国語の敬語」『敬語講座 8 世界の敬語』, 139-162, 東京：明治書院.

松村 瑞子・因 京子

2001『日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析』文部省科学研究費研究成果報告書.

添付資料：調査テスト

I 会話1～2の中の{A、 /B、 }の部分についてお尋ねします。AとB、それぞれ使うことができるでしょうか?できると思うなら○、できないと思うなら×を付けてください。両方○、両方×でもかまいません。

1 留学生李さんとその指導教官

先生：いよいよ帰国ですね。

李：はい。

先生：どうでしたか、留学生活は。

李：はい、おかげさまで何とか日本語も話せるように{A、なりましたし、 /B、なったし、}いろいろ勉強になりました。

答：A () B ()

2 留学生李さんと大学の事務室の人

李：すいません、あのう、急いで銀座へ行きたいんですけど、電車とバスと、

① {A、どっちがいいでしょうか。 /B、どっちがいいかな。}

事務室の人：そうですね。バスより電車のほうがはやいと思いますよ。

李：バスは時間が② {A、かかりますか? /B、かかる?}

事務室の人：ええ、この時間は道が込んでますからねえ。

答：①A () B ()

②A () B ()

II 会話3～4については、同じ場面の二つの会話AとBとを比べて、後の記述に賛成かどうか答えてください。別の感じを受ける場合は、dのところを書いてください。

(日本語でも中国語でもいいです。なければ書かなくてもいいです。)

3 佛寺の和尚様と修業中の小僧、芳春の対話である。芳春は傷ついた狐を救うために、毎日自分のご飯を少し残して狐にやっていた。それが和尚様にばれてしまった。

A

和尚様：あなたはこの頃わざと食事を残しては、どこへ持っていつているんですか?私が知らないとしても思っているんですか。

芳春：あの…あの…それは…

和尚様：さあ。檀家でもらったこのまんじゅうを食べてください。

B

和尚様：おまえはこの頃わざと食事を残しては、どこへ持っていくのじゃ?わしが知らんと思うとのか。

芳春：あの…あの…それは…

和尚様：ほれ。檀家でもろうたまんじゅうじゃ。おまえのような年頃の者があまり腹をすかしてはいかん。食べなさい。

問1：Aの和尚様の言葉遣いについて、

- () a. 丁寧で、上品な感じがする。
- () b. 丁寧で、芳春に対する親切な気持ちが感じられる。
- () c. 丁寧過ぎて、少し嫌味な感じがする。
- d. _____

問2：Bの和尚様の言葉遣いについて、

- () a. ぞんざいで、芳春に対する怒りが感じられる。
- () b. ぞんざいで、偉そうにしている感じがする。
- () c. ぞんざいであるが、芳春に対する配慮が感じられる。

(中国語でも日本語でもいいです。なければ書かなくてもいいです。)

5 留学生李さん (20代) と学校の事務室の人 (女性、40代)

李 : すいません、山本財団奨学金に応募したいんですけど…
 事務室の人 : あ、あれね。もう締め切りが過ぎたんですよ。同じような別の奨学金があるけど、それじゃいけない?
 ① ② ③
 李 : あ、そうですか…それでもいいね。
 ④

- ①について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. ぞんざいで、少し失礼な感じがする。
 () c. 親しさを示そうとしている感じがする。
 d. _____
- ②について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. 大変丁寧な感じがする。
 () c. 丁寧過ぎて、少し嫌味な感じがする。
 d. _____
- ③について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. ぞんざいで、少し失礼な感じがする。
 () c. 親しさを示そうとしている感じがする。
 d. _____
- ④について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. ぞんざいで、少し失礼な感じがする。
 () c. 親しさを示そうとしている感じがする。
 d. _____

6 千恵子 (6歳) と初子 (6歳) は近所 (初子の家は千恵子の家より貧しい) の仲のいい友達である。千恵子と初子姉妹が外で遊んでいた時、初子がジープにぶつかった。そのあと三人は一緒に千恵子の家に戻った。



しばらくあとで千恵子は豪華なお人形を見つけて、お母さんにお人形のことを聞いた。

問1：お母さんから初子への発話について、

- () a. お母さんは、初子が貧しい家の娘なので、ぞんざいなことばを使っている。
 () b. お母さんは、初子が子供なので、くだけたことばを使って親しさを示そうとしている。
 c. _____

問2：お母さんから千恵子への発話「あげますよ」について、

- () a. お母さんは、隣の娘より自分の娘に対してより優しくしようとして、丁寧な言い方をしている。
 () b. お母さんは大事なお人形を千恵子にあげるという決定を伝えるために、改まった言い方をしている。
 () c. お母さんは良い言葉遣いで娘にしつけをしようとしている。
 d. _____

7 なな子先生（女性、研修医、20代）となな子が担当する患者、木本さん（女性、40代）との会話である。

なな子：木本さん どうですか？

木 本：あ 先生。自分じゃどっこもどーもないのに、寝てるのってしんどいわあ。

①

なな子：行き先を届ければ出かけてもいいですよ。

……

木 本：癌—— なんですかねえ？

②

なな子：……ま それも含めて、今 検査をしているんですよ。

③

……

木 本：自分の病気についてはこわくもなんともないんだけど、ただ子どものことだけがかわいそうでねえ。

なな子：そーんな暗いことばかり言ってたら かわいい息子さんが心配するよ。

④

- ①について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. 木本さんは、体が苦しいので、ついぞんざいなことばを使ってしまった。先生に対して少し失礼な感じがする。
 () c. 独り言のように自分の気持ちを素直に表明している。
 () d. なな子先生は年下なので、親しさを示そうとしている。
 e. _____
- ②について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. 先生に対して改まった態度を示している。
 () c. 年下の先生に丁寧体を使うのは、丁寧過ぎて少し嫌味な感じがする。
 d. _____
- ③について () a. 仕事におけるごく普通の話し方で、特別な感じは何もない。
 () b. 年上の患者だから、特別に敬意を払っている。
 () c. 患者に対する発話としては、丁寧過ぎて少し嫌味な感じがする。
 d. _____
- ④について () a. ごく普通で、特別な感じは何もない。
 () b. 患者に対してぞんざいで、少し失礼な感じがする。
 () c. 特に親しみを示そうとしている感じがする。
 d. _____

8 スギナ (13歳の少女) は義父 (スギナの実母と再婚した人) と一緒に、義父の前の妻である紅子に会った。

紅子 (スギナの義父に向かって) : あなたの子?

スギナ (紅子に向かって) : {A、血はつながってません! / B、血はつながってない!}

問1 : Aの解釈として、

- () a. スギナは紅子へ尊敬の気持ちを示しているのだ。
 () b. スギナは普通の適切な言葉遣いのできる子だ。
 () c. スギナは紅子に近づきたくないという気持ちを示しているのだ。
 d. _____

問2 : Bの解釈として、

- () a. スギナは紅子に嫌いだという気持ちを示しているのだ。
 () b. スギナは適切な言葉遣いのできないしつけの悪い子だ。
 () c. スギナは紅子に親しみを示しているのだ。
 d. _____

問3 : スギナの答えとしてAとBは可能かどうか、それぞれ○か×を付けてください。(両方とも可能だと思う方は両方に○を付けてください。)

A () B ()

9 大学の教授と学生

教授 : やっぱね、学部生がいきなり海外行って、単位取るというのは、難しいよ。

学生 : うーん、① {A、そうですかねえ。 / B、そうかねえ。} やっぱり。

教授 : 大学院レベルなら、また逆によくあるんだけどね。知識はあるわけだから。

学生 : はーあ。本② {A、読んでますから… / B、読んでるから…}

教授 : そうそう。

学生 : やっぱり、知識つけてから③ {A、行った方がいいってことですね。 / B、行った方がいいってことね。 / C、行った方がいいってこと…}

教授 : まあ、そういうことかなあ。

学生 : ④ {A、むずかしいですね。 / B、むずかしいなあ。 / C、むずかしいね。}

問1 : 教授の言葉「難しいよ」と「あるわけだから」について、

- () a. ごく普通で特別な感じは何もない。
 () b. ぞんざいで、少し偉そうにしている感じがする。
 () c. 特に親しさを示そうとしている感じがする。
 d. _____

問2 : 学生の言葉として①~④のA、B、Cはそれぞれ使用可能でしょうか? 可能なものには○、不可能なものには×を付けてください。

- ① A () B ()
 ② A () B ()
 ③ A () B () C ()
 ④ A () B () C ()

問3 : 問2の () のどれか又は全部に○を付けた方に聞きます。その理由を書いてください。

注 : *理由は同じでなければ、別々に理由を書いてください。

*日本語でも中国語でもいいです。



お忙しい中、ご協力 ありがとうございます！
非常感谢你在百忙之中给予协助！

☘附：単語表

3	ばれる：暴露 檀家：施主者 まんじゅう：包子 腹をすかす：饿肚子 丁寧：很有礼貌 嫌味：令人不快的，讨厌 ぞんざい：粗鲁	5	応募：申请 締め切り：截止	7	どっこともどーもない： (感觉身体) 没有什么地方不好 しんどい：累，疲劳 なんともない：没什么，没关系 独り言：自言自语 丁寧体：敬体
4	まもない：不久 ビアガーデン：啤酒店	6	ジープ：吉普车 ぶつかる：碰，撞 くだけた：平易近人的 改まる：郑重其事 しつけ：教育，教养	8	つながる：牵连，牵扯 いきなり：突然
				9	単位：学分

Regarding the recognition of the function of speech style in Japanese conversation by Chinese learners

—Observation through the use of the polite form and the plain form—

WANG XIAOMEI

This research used a test format to investigate how Chinese learners of Japanese language interpreted examples of conversation containing many incorrect interpretations of the function of speech style, such as those pointed out by Chinami (2005). As a result of this investigation, the following became clear.

1. Chinese learners of Japanese recognize the conversation of their seniors and juniors, especially those close in age to themselves, as conversation “between friends,” and exhibit a tendency to try to express familiarity by use of the plain form.
2. Chinese learners also exhibit a tendency to use the plain form to express familiarity towards a superior. Since they have not received instruction regarding suitable utterance strategy. They often use the plain form where it is inappropriate.
3. Chinese learners exhibit a tendency to immediately associate the existence of “respect or politeness” with speech style.
4. There are times when Chinese learners fail to notice changes in social context.
5. There was almost no observable proof to say that higher recognition of the function of speech style increases the progress of interaction with Japanese people.